

異常気象や洪水で環境が悪化した日高川の天然遡上あゆを再生させるプロジェクトを支援する個人や団体、企業を募集します。



日高川漁業協同組合

背景と趣旨

ふるさとの川『日高川を』代表する、あゆの天然資源が減少しています。

2011年の紀伊半島大水害以降、河川環境が悪化し、魚やホタルの住みにくい日高川になっています。

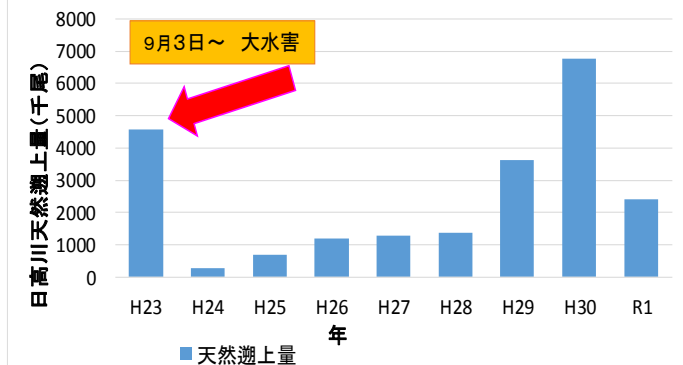
日高川漁業協同組合ではあゆ、あまご、うなぎ、もくずがなどの有用魚を放流して増殖に努めていますが、近年の組合員の減少や遊漁者の減少で日高川を利用する人が少なくなっています。

母なる川『日高川』を以前のように魅力ある川に再生すべく、海産遡上あゆを再生させるプロジェクトを計画しています。

この再生プロジェクトを通し、清流を取り戻し、人々が川に親しめる環境を創造する事を最終目標として広く、賛同し支援頂ける方を募集いたします。



平成23年水害以降の天然アユ遡上量の推移



プロジェクトの計画概要

水害翌年の遡上数は27万尾まで激減

平成23年の紀伊半島大水害により産卵前の鮎が壊滅的なダメージを受けた。

地域の遺伝的集団を維持するには、非常に危険な個体数まで母体群が縮小したため、翌年の遡上稚アユの数は過去最低の27万尾まで激減。

翌年より海産養成親魚の放流を試みる。産卵親魚を積極的に増やす試験を行い、資源の回復を模索。

5年目の平成28年に親魚の放流量を1,000kgに増やした結果、翌年の天然遡上稚アユが350万尾まで回復した。

台風など洪水で鮎が大きく減耗した場合、人為的に産卵用の親魚を供給する事で資源の維持増大が図れることが実証された。

しかしながら、河川漁協のみではこの大がかりな事業を継続するには経済的な負担が多く、運営に支障をきたしている。

今後も継続して資源保護事業を行うため、地域だけではなく広く支援を要望し、事業の存続を行いたい。

事業実施計画

目標事業量

産卵期(10月下旬～11月上旬)に産卵場に2,000kgの抱卵親魚を放流。

- step1. 親魚養成に必要な天然海産稚アユの購入。
- step2. 2月に購入する天然海産稚アユを、日高川鮎種苗センターで産卵期を制御しながら親魚として育成飼育。
- step3. 産卵場の河川状況水温等を調査の上、抱卵親魚を放流。
- step4. 抱卵親魚放流後のカワウ食害の防除。
- step5. 産卵調査、孵化、流下仔魚の調査。
- step6. 翌春の天然遡上数の計数調査。
- step7. 事業効果の検証。

事業実施予算

品名種目	単価	数量	金額	摘要
天然海産稚アユ	9,000円	100kg	900,000円	2月に特別採捕された海産稚アユ
餌料費	900円	2,600kg	2,340,000円	餌料効率70%として算出
電力費	200,000円	9ヶ月	1,800,000円	育成水槽2面の揚水ポンプ電力費
人件費	200,000円	9ヶ月	1,800,000円	2月～10月の飼育管理人件費
諸経費			100,000円	運搬費用等
合計			6,940,000円	

事業実施スケジュール

	作業メニュー	摘要
1月		和歌山県水産試験場による海域資源量調査
2月	養成親魚用海産稚アユ購入 飼育開始	
3月	養成飼育 第1次選抜(成長優良群の選抜)	3月～5月 遡上数調査
4月	養成飼育	
5月	養成飼育 成熟制御のため電照処理開始(長日処理)	
6月	養成飼育	
7月	養成飼育	
8月	養成飼育	
9月	養成飼育 電照処理終了(自然日長)	
10月	養成飼育 親魚放流の時期、場所の選定	
11月	産卵場の整備、放流、カワウ食害対策の実施	
12月		和歌山県水産試験場による産卵状況、孵化仔魚流下調査

支援募集について



支援の方法

購入型ファンディング(当漁協のお魚工房で製造のアユ等の加工品)
鮎の加工品 鮎の甘露煮 2尾、子持鮎の甘露煮 2尾、合計4尾のセットを
一口3,000円で購入頂き、その売上金を支援金として
事業費に充てさせていただきます。
購入の商品を代金引換でお送りさせていただきますので、
商品と引き換えに配送業者にお支払ください。